





潜入任務3ヶ月と1日目

ギシツ……

「くっ……何のつもりですか？  
指導を受けるとは言いましたが、この緊縛は…」  
「何って指導ってんだろ？ドスケベ指導な♥」  
「……確かに房中術は不得手でしたけど……  
里の命とは言え……なぜ私が校長を誘惑など……」  
「あの校長は、あんな見た目で女に困ってない上に  
好みがるさくてな…他のくのいちじゃ籠絡  
できなかったんだよ」  
「…だからっ…他のシノビで駄目だからと言って  
何故、私が…私には愛する夫もいるのに…」  
「おいおい、本気で言ってるのか？  
くれは先輩……」

「こんなバカでかい乳、ぶらさげてよっ!!!」  
「ばちまんっ!!!」  
「ひろうっ!?♡♡」

「しかも感じると陥没乳首からデカ乳首が  
飛び出てくるドスケベ乳だからなっ♥」  
「パチンっ!パチンっ!パチンッ!」  
「ひろうっ!♡ひろうっ!♡ひくろ!!♡」  
「(なんでっ?…こんな屈辱的な仕打ちを受けているのに…  
おっぱいが…気持ちよくなってるんですが!♡)」  
「くっ、乳だけじゃなく…尻に腹にも肉が  
詰まってるからな、あの校長が好むエロボディってわけだ  
……しかも……」



「人妻なら尚更だ...さあ舌出しな...♥」  
「んう...き、キスだけは...やめ...て...」  
「ああん? ダンナに気を使ってか?...まあ、いいか...  
まずは、このマジでエグい乳から仕上げるからなっ!」  
「ひくうう!! ♥♥♥」  
「ほらほら...どうよ? そのうち乳だけじゃなく体中どこでも  
マンコの数倍、感じるようにしてやるからな」  
「ひう♥あう! ♥ひくっ♥ひううん♥」



「ふう♥...ふう♥...なんで...こんなに...」  
「ああ...オレは戦闘はからっきしなんだけどよ...  
指とかチャクラ通して揉み込むとな  
すげえ感度あがんのよ...しかも  
チャクラを依頼人に合わせれば...」  
「ふうふう♥...依頼人?...里のこと?」  
「そうそう...まあ、そんなことより...」



べろべろお!  
「あひんっ! ♥...くう、ちょっとソコは...」  
「クリも乳首みたいにデカく...マンコもスケベに...  
マン肉ぼってりのスケベ体型にしろってのが  
クライア...校長の好みだからなあ」  
「そ...そんな体になったら炎斗さんに何て  
説明すれば...ひうんっ! ♥」  
「本当のこと言やいいんだよ、ごまかさず...  
普段はキリっとした国語教師してるけど  
裏ではスケベな体ぶらさげて淫語大好きな  
人妻教師になって校長誘惑します、ってな♥」  
「ふ...ふざけないで...んうう! ♥」



ぶるんっ!

「ついでにデカチンも大好きにしてやるよ  
俺のチンポは形も大きさも自在でな」

「なっ!、?」

(なんて大きさ……こんなの…夫の何倍も……  
こんなの痛いだけ…まともに入るわけな…)

べしっ!べしっ

「あぶっ♡へぶっ!♡」

「心配すんなって、俺のチンポいれられた女は  
あとで必ず連絡とばしてくるんだよ…個人的にな」

「そ……そんなわけ…ひうんっ♡ああん♡」

(うう♡この匂い……頭がおかしくなる…

ち…チンポのニオイでアソコが……おかしな声まで  
出てしまうわっ♡)

「ひおおんっ!♡♡」

ずぼっ!すぼっ!じゅぼっ!

「おっ♡おお♡んお!♡おつきすぎ…お♡お♡」

(おがしいわっ!こんなデカチンポ……ぶっつなら  
痛いはずなのにいい♡)

「言った通りっしょ?病みつきになっちゃうって!ふんっ!」

「〜ううっ♡…こ…こんにゃのお…ぶくっ!♡」

「へえ〜…頑張るね……それなら…」

ぐりぐりぐりぐりっ!

「おほおおお!♡んほっ!?!にゃにっコレえ!?!♡

おおお♡おくう!赤ちゃん部屋のところにいい♡」

「龟头振動回転させて子宮アクメさせちゃうってわけ」

「ひおお!♡炎斗さんの…おほっ赤ちゃん部屋あ♡

<ちゃくちゃにしないでええ!♡」



「そりゃ無理な話だわ、この『訓練』が終わったら頭の中はチンポの事ばかりのピンク色に染まっちゃうんだからな」

「そ…そこまで…ひくっ！♡うくう！♡」  
(ダメえっ♡…子宮だけじゃなく本当に頭の中までおがしくされるうう♡)

「しかも…校長のチンポサイズにしてる上に……気やフェロモンまで同じにしてるからな…ふっ！ふっ！♡これでダンナの粗チンじゃ一生感じれない体になるわけ」

「ぶくううん！そんなに…こと…イくっ！♡」  
(ああ♡イキっぱなしにされてるうう♡  
いやっ、いやよっ！エントさんのチンポ忘れちゃダメっ♡)  
「わすれちゃ…いくっ！♡…おっ！♡♡」

「すぐ忘れられるって！ホラ！」

「ばちんっ！ばちんっ！」

「ぶぎいいいん！♡お尻い！…いくっ！♡」

「たたかなひで…いんくう！♡♡」

「くっ！思ったよりも全然具合がいいな……」

「校長がこだわるのもわかるな…べへっ」

「こんなスケベ女じゃ、さすがに、もう出るわっ…ぐっ！♡」

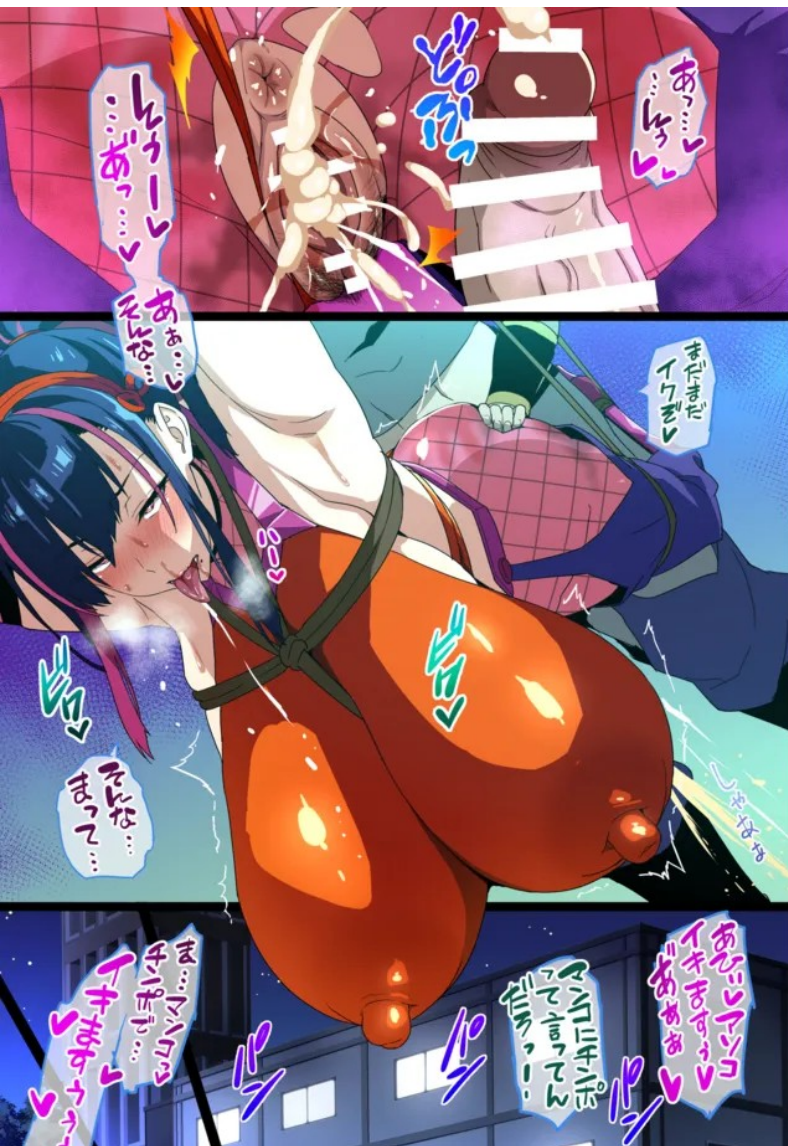
「ま…まっへ……中は…中はだけはエントさんにっ……ひくっ！！♡」

「孕ませるのも自由にできるのが調教師だからな…」

「心配すんなって…中出しザーメンすぐに好きにしてやるからさ…くれはセンパイ♡」

「だ……めっ♡……おっ♡……」

「いくううううう！！♡♡」



……ぶりゆっ

「ふうう……こんなに出したの久しぶりだよ  
 くっく！エロババアのくぜに、しつこく吸い付くるマンコだな」  
 「あ……ああ♡…だ…めっ♡……ぜったひ…  
 エントさんの……チンポではらむ…  
 ……ひくっ♡」

「くっく！妄想でイッてるな……  
 だが今日で、その妄想もできなくなるぜ……  
 妄想する度、俺のチンポと今日のセックスのことしか  
 思い出せないようになっちまうからな…」  
 「はあはあ♡…いや……そんなこと…  
 ない……ぜったひに…」

「くっく！イッてるろ イッてるろ……  
 明日は休日だろ？悪いが朝までツキ合うからな♡」  
 「う…ぞてしよ？……はあ…はあ……  
 お…男の人って一回で終わるはず…じゃ…んっ♡」  
 「粗チン野郎と一緒にすんなって…  
 くのいちのくぜに他の男とヤッてねえのか？センパイ  
 どうやら体力と忍術だけでのじ上がったせいで  
 房中術はマジでヤッてなかったのかよ…」  
 「ううう……炎斗さんのこと…悪く…いわないで…」  
 「へへ…だが、その体力のおかげで俺の『調教』に  
 朝まで付き合えるわけだけど……  
 普通の女なら子宮の振動攻めで大概気絶してるからな♡」

すぶう！！  
 「ひっ！？ひくううう！！♡♡」

その日…男子学生寮の端にある部屋からは女の嬌声が  
 ずっと鳴り響いていたという……



潜入任務3ヶ月と7日目

「……まったく、あのエロタヌキ…また違う女連れ込んでやがる…マジでスケベジイだな」  
「あれが売買されている学生の可能性があるんですね…んっ♡」

「そういうこと……ククク」  
「んっ！ちょっと…コラっ！やめなさいっ……炎斗さんの聴覚だと……聞かれちゃうっ…んう♡」  
「心配すんなって、ここら一帯じゃ、どのホテル…部屋でもやりまくってるカップルだらけ…聞こえねーって」  
「そういう問題じゃ……それに、この格好なんですか？監視するのに……こんな格好……」

「そう言いつつ、しっかり着替えてくれるクレハ先輩マジかわいいっすね♡」  
「うくっ……が、がらがわないうっ……んっ♡」  
(最近、毎晩シてるからって……なにを意識してるんですが！私は……)  
「これは、いつもの訓練も兼ねてっから……さあ、カップル演技の続きっす♡」  
「ペロペロお〜♡」  
「ちよっ……キスはダメつてえ……あんっ♡」  
「だ……だめえ……♡」  
(ダメ……変な声でてしまう…昨日エッチの勢いでシたからって調子にのって…あぁ、男くさいヨダレ撒き散らさないで……)  
「うう♡……はぁ、はぁ……♡」  
(私も私です…あれだけキスは拒否して守ってたのに……あぁ♡すごい舌使い…)



「だ…めえ……んべろお♡」

くちや

「んぱううん♡」

(あああ、シちゃった…まだシちゃいました…)

「んべ♡んちゅ♡んちゅう♡んべえ♡」

(ああ…こんなエッチなキス……訓練とはいえ

…浮気に…浮気になってしまう……ああん♡

舌が絡み合って…溶けちゃいそう…♡)

「んちゅ♡あびう♡んぱう♡……んちゅうう～～♡」

(もう…舌がどっちの舌かわからない……♡)

「んうううう～～～♡んぱちゅうう♡」

「んぶっ♡…いいぞお…ドスケベキスうまくなってきたな」

(んううう♡ドスケベなんてえ……そんなのダメえ

こんなドスケベキス…まるで恋人みたいにい♡)

「んぶっ♡ごほうびっ♪」

「んぱううんっ!♡キひゆされながら……んぱちゅ♡

手マン…すっごっ♡キスう♡んぱちゅうううう♡

キモひいい♡……んちゅううう♡」

(指っ♡Gスポットがりがりして……キモチいい♡

ああ♡本当に頭おがしくなる♡

夫を裏切ってドスケベキスしてるの(にっ♡)

「あび♡はびう♡んぱううん♡」

「んぶっ、素直になったクレハ先輩えっろっ」

「んううう…言わなひてえ…んぱううう♡

んちゅ♡んぱちゅううん♡」





「……ぴよ…ピョンピョン♡  
よく来てくださいました～  
ドスケベバニーのくれはこと…  
くーちゃんて～す♡」

(うう…いい歳して、こんなこと言われるなんて…  
炎斗さんも聞いているかもしれないのに…でも…)  
「お願いします♡あなたのデカニンジンここに……」  
くぱくぱ…ぴゅっ  
(オマンコうずいちゃってます♡…ほしいのっ…ここにい♡)  
「んうっ♡オマンコ忍術…び、ヒラヒラくぱくぱの術う～♡  
この中にイれてほしい…ぴょんっ♡んう♡  
アタタのを……くーちゃんのヨダしだらだら  
ドスケベオマンコに……ちょうだ～～い♡♡」  
(あああ♡炎斗さん、ごめんなさいっ  
私、この人のがいチンポされるの望んじゃってます！♡)

「くっ♡…まあまあ…だな…  
まだ少し、ぎこちねーけど……」  
ずぼっ!

「おほおお～～♡♡!!」

「ご褒美あげますよ、くーちゃんっ♡」  
「おっ♡おっ♡おっきいのがあ…はいつて…んおっ!♡  
おっ♡おほお♡すごひいつ♡んおお!♡」  
「『おっきいの』じゃなくて、デカチンだろ？」  
俺が教えた下品淫語わすれたのか？現役国語教師!♡」  
「おほおお!♡デカチンっ♡デカチンすっげっ!♡  
おほ♡おっ♡ぎもちいひい…おほ!♡」



「うまいこと言えたねえ、ごほうび——んべえ♡」  
(おお♡顔が近づいてくる…私より年下だけど  
たくましいドウゴさんの顔が…♡)  
「んべう♡んぢゅう♡んべううん♡」  
(ああ♡吸っちゃう♡ドウゴさんのヨダレも舌もお♡  
こんなの完全に浮気♡浮気トスケベせつくすう♡)  
「んぶっ…マジでメスブタの顔になってきたな…んぢゅ♡  
一週間もただけでも大したもんだけどな…んぢゅ♡」

「んべうう…んぢゅうう~~ん♡」  
(おっ♡おっ♡ダメエ……私が愛してるのは炎斗さん  
…ダンナさん…なのに……こんなエロキスせつくすしてたら  
体が…頭が誤認してしまいますう…♡)

「ひぐうう!!!!」  
「今日の訓練もマジでイカせまくってやるからなっ  
しかもカップルみたいにラブラブ種付けセックスでな!んぶっ♡」  
「あひっ♡んべうう!!!♡おお♡  
ドウゴさんのデカチンすごひい!♡  
これはのマンコお♡…んお!完全に屈服してるう!♡  
おっ♡いつ…<う♡んおおっ!!!♡」  
どぶぶぶっ!  
「ぐっ!射精しても…お前がいくらイッても止めねえからな…  
覚悟しろよっ!今日で完全色ボケババアにしてやるからなっ!」  
「んおお!♡いつ…♡んお…されちゃう♡  
ドウゴさんのこと大好きな…デカチン大好きな  
トスケベババアにされちゃ……うおっ!♡いつ<!♡」  
どぶぶぶっ!  
「おひい!♡やっべっ!デカチンやべえっ♡  
いぐのとまんなひ……あひっ♡あひっ♡  
たひゅけて…イントさ……おおお!♡」

その後、1時間近くのノンストップの種付けラブラブ  
セックスが続けられ……



「……ふう……どうだった？クレハ先輩っ♡  
俺の浮気ラブラブセックスは…  
これがアンタをイカせ続けたデカチンですよ〜♪」  
「…ふう…ふう♡…んびちゅ♡…むちゅうらんっ♡」  
「くっ…聞くまでもねえか……  
嬉しそうに鼻の下のばしながらキスしてきてよ…くっ♡」  
むくむくっ  
「あ〜♡アンタのスケベ面のせいでまた勃起して  
きちまったよ」

「♡♡♡♡♡…くださあい♡  
デカチン♡でがちん〜♡」

「ほら…舐めていいぞ…クレハ♡」  
「はひっ♡べろべろお〜ん♡あはっ♡…すごいつ♡  
さつき出したばかりなのに、もう、おつきくなる…んべえ♡」  
「お前がスケベすぎるからだろ…マジで  
いい感じのエロババアになってきてるぞ♡」  
「んべえ♡んばあ♡ババアって言わないでえ…んべ♡」  
「くっ、それより、すぐまた始めるぞ…そうだな  
次は俺好みの下品な喋り方で……夫の粗チンパカに  
しながら…浮気セックスな♪」

「んびちゅうら〜ん♡…そんなあ…」  
(ごめんなさい…炎斗さん……これは…  
任務……訓練ですからあ…♡)  
「仕方ないですねえ〜♡訓練ですし…んびちゅう♡  
これからトウゴさんとマジでエロエロな  
浮気セックスしまくっちゃいまあ〜す♡んちゅう♡」  
ちゅっ♡ちゅっ♡ちゅっ♡  
「くっ…こんなチンポキスで求愛されたら  
答えるしかねーな…クレハ♡」



潜入任務3ヶ月と20日目

「くっ……めっちゃ見てたな、お前のダンナ♪」  
 「…だ…旦那じゃないです……今は……私はドウゴ先輩のカノジョ…『くーちゃん』ですっ♡」  
 「くっく、この三ヶ月でマジで頭の中ピンク色になっちゃったな…まあ他の女なら半分もかからねーから…お前は優秀だよ『くーちゃん』♡」  
 「あ…ありがとうございます♡」  
 「ドウゴせんぱいっ……はあはあ♡」  
 「んじゃ…優秀なお前ならナニすればイイか…わかるよな？」

「はあ～い♡…ドウゴ先輩のカノジョ……」  
 「くーちゃん』はあ…」  
 「……ぴら～ん♡」  
 スカートを自ら捲ると濡らしたショーツを見せつけるクレハ  
 「おパンツ…ドウゴ先輩の為に又レ又レにしておきました♡」  
 「はあ～ん♡」  
 「ぶっ♪…いや、バカっぽくて笑っちゃうな」  
 「ああん♡…酷いです…ドウゴ先輩の為にしてるのに♡」

「あ～、そうだったな……あのタヌキ好みのエロバカBBAにするんだったわ……んじゃ、ご褒美に…お前が最初嫌がったペロチューしてやるよ……あ～♡」  
 「おほっ♡……ぷうぷう♡…ありがとうございますっ♡」  
 「いただきまあ～す♡……んぱぢゅうう♡」

(おお♡このヨダレ…うっまつ……♡  
 若い男のヨダレたまんねえ♡)  
 「んぱぢゆるるる♡んぱっ♡んじゅぱ♡んぱう♡」  
 「ドウゴひえんぱあ～い♡ちゅき♡ひゅき♡」  
 「んぶっ！すげえマンゴヅラ…んぶっ♡」  
 「ドウゴひえんぱいは…んぱぢゅ♡いけめ～ん…んぱう♡」







「んぱうらう！！♥♥♥」  
(おお♥濃いのだああ♥子宮に射精してもらったら絶対妊娠するやつらうう、いただきます♡)

「ん<っ♥ん<っ♥んぱうらう♥」  
ごくっ)ごくっ)ごくっ……  
「βはあ……ん^^♥このラーメン飲むだけで…  
んひっ♥軽イキしちゃいました…んっ♥」  
「食べ終わったら…言う事あるだろ？」

「あ~~~~♥  
ドウゴひえんばいのラブラブラーメン  
ごちそうひやまれひたあ♥」  
「よく言えたな…よじよし♥」  
「ああん♥ドウゴ先輩…ナデナデなんてしたらあ  
もっと好きになっちゃうらん♥好きっ♥好きっ♥  
ドウゴせんぱ〜い♥」

「おいおい、旦那も聞いているのにイイのかよ?<<<」  
「お仕事だからだいじょうぶでえ〜〜す♥  
デカチンポ大好きなこと  
告白してもダイジョウブ〜♥」

「完全に頭ん中、マンコとチンポのマンコ女になってんな!」  
「そうでえ〜す♥クレハは、あたまチンポの  
オマンコぢ…でええ〜す♥んひっ♥」  
「いいぜ、それなら頭がオマンコってところ証明してみな」  
「もちろんですっ♥頭のながデカチンポでいっぱい♥  
マジでドスケベになってる証明としてえ……」





「おっ♥んお♥おお♥おおっ♥すっげ♥  
デカチンたまんねえっ♥いくっ!♥」

「おいおい、早くイキすぎだろ……んぶちゅ♥」  
「んちゅうらん♥だめっ♥イッてる最中に……んぶらん♥  
キスハメ…んぶちゅ♥……好きになるっ…んちゅ～～♥  
ガチで好きになっちゃっ♥おっ♥いくっ……んぶちゅ♥」

「うぐっ♥本当にエロいBBAだな…ぐっ♥  
マジで俺のメス豚にしてくなってきたわ…ぐっ♥」  
「して♡してえ♡ぶひっ♡ぶひひっ♡  
クレハはドウゴ先輩のメスブタになりま～す♡ぶひいん♥」  
「くっ…女として終わってんだろ…」

「おっ♥んお♥終わってますっ♥オナホだからっ♥  
おっ♥…すっげ♥…んお!♥生ハメやつべ…んお!♥」  
(くっ…マジでエロタヌキには勿体ねえ……  
でかいクライアント案件だが…俺のオナホにしてえ)  
「おら! 孕ませてやるから…子宮おろせっ!」  
「はひい!♥孕ませてえ!!!♥  
夫もまだ孕ませてない  
子宮…オナホにコキ捨てるみたいだに…  
無責任中出しいい!♥♥」  
ずぼ! ずぶっ! ずぶぶっ!

「おおっ!♥デカチンぶくらむう…んぶひっ!♥  
クレハのオナティッシュマンコに……  
コキ捨てくださいああい!!!♥♥」  
「うぐっ…!!!♥」



どぶぶぶぶっ!

「お、おおお!! ♡♡  
ひくううう!! ♡♡♡♡いつ〜〜くううう! ♡♡  
どぶどぶ…どぶどぶ…

「うぐっ! ♡やば…マジで出るっ…ぐう! ♡」  
(俺としたことが…こんなスケベババアに  
ガチ射精させられるとは…)  
「ひー♡ひー♡…あっ♡…あはあ…♡  
はいっでくる…んぷひっ♡」  
「うぐっ♡…ふう…♡」  
どぶどぶ…

「お、お♡射精…なっげえ♡…うひっ♡  
子宮あふれるっ…ひお♡…まだ…いっく…♡  
うひひっ♡…コレやっべ♡」

「くく…これからは校長対策の『訓練』以外に…  
俺好みのメス豚になる『訓練』もくわえていけど…  
俺『専用』のオナホになる為に…な」  
ぼそぼそっ

「ああん♡♡…はひい…お願しまあす  
ドウゴ先輩のこと…もっと好きになっちゃう『訓練』  
いっぱいしたいです」  
(コレ以上すごい『訓練』されたら…もう  
戻ってこれなく…なりますう…♡  
たすけてえ〜ん♡エントさ〜ん♡)

「くくっ…♡楽しみだよな、クレハ…んぶちゅ♡  
(決めた…こいつはマジで俺のオンナにしてやるよ♡)



◆火野 くれは(28)◆

T167 B129(Qカップ) W69 H120

シノビの里に所属するクノイチ  
戦闘能力が高く脂肪を膂力に変える忍術を  
扱う家系、おかげで食いしん坊。  
だが名家の産まれで育ちがよく  
そのことをバレルこと嫌う。

幼馴染の炎斗と結ばれ、幸せな家庭を  
築くはずだったが里の命で夫と教師として  
とある学園の潜入任務に向かうことになる…

そこで彼女は校長などからセクハラを  
受けるが厳しい態度で返し生徒達からも  
人気を得る、国語教師でエロい男を嫌うが…

この潜入任務の際に一緒に行動すること  
になったドウゴによって彼女の運命は  
そのスケベな体にふさわしい道を  
辿ることになる……



◆火野 炎斗(28)◆

くれはと同じシノビの里に所属する上忍  
戦闘より諜報活動がメインだが優秀なシノビ

今回は新婚の妻と一緒に任務で  
張り切っている……だが、そこに  
仕掛けられた罠に気づいていない

粗チン。



◆ドウゴ(??)◆

シノビの里に所属する新人の下忍  
房中術が得意でチンコがデカイ  
指先から神経にチャクラを通し性感のツボを  
刺激したりチンコの形など自在に操る

本当は女性を売買してる犯罪組織の調教師  
依頼主の思うような女に変えてしまえる  
最低のシノビ

◆校長(52)◆

麗堂学園の校長、デカチンでスケベ、セクハラも行う最低校長だが  
何故か問題にならず学園の校長で居続けている……その招待は  
女性を売買する組織の長、学園の生徒から教師まで今まで何人もの女性が  
その毒牙にかかっている